

2024/06/08(土)

もみぬかやま
粉糠山(1744m) 飛騨市と白川村の境

メンバー:L 辻(記録)、有賀、福田

寝坊した人、アルピコバスの後ろで 40K 走行、片側通行個所いくつかありで到着が 30 分遅れとなり、100 台の駐車場は 9 割方埋まっていた。天生^{あもう}県立自然公園、天生^{あもう}峠登山口で環境協力金 ¥500 を払い、パンフレットをもらう。外来種を侵入させないため、靴底を洗い流して出発。山菜、キノコ、植物採取禁止となっている。ペットも×。中高年の団体多数。人気の山だと認識する。

天生^{あもう}湿原に向かう探勝路ではミツバオーレン、羅生門カズラ、ニリンソウ、ショウジョバカマの山野草が^{あもう}つぎつぎ出現。天生^{あもう}湿原では斑入りの巨大な水芭蕉がちょっとぶきみ、花はほぼ終わりかけだったが^{あもう}かろうじて残っていた白花あり。湿原の中に立山リンドウ、ワタスゲ、リュウキンカ、コバイケイソウ、あり。

カツラ門からカラ谷登山道に入り渡渉を繰り返し登っていく。自然の丸太をそのまま利用した木段は歩幅も狭く歩きやすい。立派なカツラの巨木が見事だ。登山道の両側に山野草が^{あもう}つぎつぎと現れ、まさに山野草の宝庫。先週はサンカヨウロードだったに違いない。もう少し朝早ければスケルトンのサンカヨウが沢山見られたのに残念！標高を上げるほどに状態の良いサンカヨウ出現。キヌガサソウの白い花も大きく見事だ。エンレイソウも額の中の花を初めて見た。今までは実の周りのガクが花だと思っていた。ツバメオモトの白い花も次々と咲いていてこんなに大量に見たのは初めて。ミッションだった緑のニリンソウは福田さんが発見。ムラサキヤシオも蕾から鮮やかなピンク色の花まであり、ウワミズザクラの花もふさふさで見事だった。

次から次へと花がでてきて写真撮影でなかなか前に進めない。最後の山頂までの 40 分は急登だったが樹林のトンネルの中は快適だった。山頂は狭く運よく団体さんが去った後で静かだった。遠くに北アルプスらしき展望ありだけど山特定できず。時間が無いのでさっさと下山開始。

下山途中のベンチで大休憩。環境整備費のおかげかあちらこちらにベンチが設置されていて助かる。

下山路の木平^{きだいら}湿原コースへの登山道は一旦登ってから下る。木平^{きだいら}湿原はこじんまりした小さな湿原だった。

山野草は登りで沢山見て満足したため天生^{あもう}湿原までぐんぐん下山。下山後一方通行の帰路で最後の湿原をじっくり堪能した。水中にイワナが泳いでいるのが見えた。自然が豊かでまさに山野草の宝庫、花の楽園だった。遠くまで来た甲斐ありで大満足の山行だった。

ちなみに今日の入山者 240 人、先週は 100 人多かったとのこと。ブナ、カツラ、トチ、ダケカンバ、オオシラビソなどの落葉樹が巨木で見事だったので秋の紅葉もきっとすばらしいことでしょう。秋にも訪れてみたい山です。

【コースタイム】

天気/晴れ 蒸し暑い

09:00 天生峠 P

09:30 天生湿原

09:40 カラ谷分岐

10:35 木平分岐

11:20 粉糠分岐

11:50 粉糠山

12:40 粉糠分岐

13:00 木平分岐

13:15 木平湿原

13:40 カラ谷分岐

14:00 天生湿原

14:30 天生峠 P



ミヤマシキミ



あもう
天生湿原



タテヤマリンドウ



斑入ミズバショウ



リュウキンカ



ウワミズザクラ



ゴゼンタチバナ



マイズルソウ



コバイケイソウ



サンカヨウ



スケルトンのサンカヨウ



エンレイソウ



ヒロハカエデの花



カツラの木に寄生したヤグルマソウ



ホウチャクソウ



チゴユリ



ミツバオーレン



ツクバネソウ



緑のニリンソウ(幸せを呼ぶとか)



ニリンソウ



ムラサキヤシオ



アカモノ



ラショウモンカズラ



ツバメオモト



ハタザオ





キノガサソウ



スダヤクシュ



オオカメノキ(ムシカリ)

^{アモウ}天生峠は一年のうち半分は雪にとざされているそうです。山深く自然が豊かなだけに熊が出ることも有名らしい
白川郷まで 13kあまり。道路事情が良い高山側から来る人が多いとのこと。7 月にはニッコウキスゲが咲き誇るのだとか。

写真載せられなかった花

ミツガシワ、タニウツギ、イワナシ、ルイヨウボタン
ウラジロヨウラク、ショウジョバカマ